

## 舌癌動注化学療法における供血動脈の検討

### ・はじめに

動注化学療法とは癌を直接栄養する動脈（供血動脈）に管を入れて抗癌剤を注入する手法です。これにより全身化学療法に比べて病変部に集中的に高濃度の抗癌剤を注入することが可能となり、治療効果の向上が期待できます。舌癌は病変と同じ側の舌動脈から栄養されることが多いですが、1本の動脈だけでなく反対側の舌動脈や顔面動脈などからも栄養を受けることもあります。治療の際にはすべての供血動脈を探して抗癌剤を流さなければ治療が不十分となってしまいますので、治療の前にそれぞれの動脈の血管造影検査を行い、供血の有無を調べた上で、すべての供血動脈から治療する必要があります。しかし多くの動脈を検査するとそれだけ検査時間がかかり、患者さんの負担や合併症のリスクが増えることとなります。術前の画像検査にて供血動脈の状態を予測することができれば、より効率のよい検査、治療が可能となり、患者さんの負担を減らし、合併症のリスクを低減することができるのではないかと期待されます。

今回、私たちは舌癌の動注化学療法において術前の画像診断の所見と供血動脈の状態を比べて統計学的に解析し、より効率のよい検査法、治療法の確立の可能性を探ります。

### ・対象

九州大学病院放射線科あるいは耳鼻咽喉科において舌癌に対する治療を行った方の中で、治療の一環として九州大学病院放射線科にて平成19年1月1日から平成26年12月31日までに舌癌の診断で動注化学療法を受けられた方の画像検査所見のうち、約50名を対象に致します。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

### ・研究内容

当科で動注化学療法を施行した舌癌の供血動脈の状態と術前のCTやMRIからわかる癌の大きさ、部位、進展範囲を比較します。これにより、術前の画像検査であらかじめ供血動脈の状態を予測することができるか、考察します。

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

研究にあたっては下記の臨床情報を診療録より取得します。

- ① 年齢
- ② 性別

- ③ 現病歴
- ④ 臨床病期
- ⑤ 組織診断
- ⑥ 画像所見

血管造影所見（供血動脈）

CT, MRI 所見（腫瘍径、部位、進展範囲）

#### ・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院医学研究院臨床放射線科学分野においては、個人を特定できる情報を削除し、データの数字化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

#### ・研究期間

研究を行う期間は承認日より平成 29 年 3 月 31 日まで

#### ・医学上の貢献

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将来研究成果は舌癌に対する動注化学療法の手技の向上の一助になり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

#### ・データの二次利用について

本研究において得られたデータを別の研究に二次利用する可能性があります。その場合は、改めてその研究を倫理審査委員会において審査し、承認を受けた上で利用いたします。

#### ・研究機関

九州大学大学院医学研究院臨床放射線科学分野・教授・本田浩

九州大学大学院医学研究院保健学部門・准教授・藪内英剛

九州大学大学院医学研究院分子イメージング・診断学講座・准教授・長尾充展

九州大学大学院医学研究院分子イメージング・診断学講座・助教・川波哲

九州大学病院・放射線科・講師・浅山良樹

九州大学病院・放射線科・助教・神谷武志

九州大学病院放射線科・医員・米澤政人

九州大学大学院医学研究院耳鼻咽喉科学・准教授・中島 寅彦

連絡先：〒812-8582

福岡市東区馬出 3-1-1

Tel：092-642-5695

担当：神谷武志